



花火大会でまちおこし

We are 宝田青年会!



☎ 阿南市 (0890) 450616210



赤いTシャツとさわやかな笑顔がトレードマークの宝田青年会の皆さん。祭りの衰退で活気を失いかけていたまちの再興に一役買おうと、5年前に花火大会を復活させた。「幼少の頃に見た祭りの活況を今の子どもたちにも味わってほしい」と、公民館や周辺の田んぼを舞台に多彩な催しを繰り広げている。中でも、イベントのフィナーレを飾る花火大会には並々ならぬ情熱を注いできた。この花火を見ないと宝田の夏は終わらない。地域の期待を一身に背負う若者たちが、今夏も躍動する。

平均年齢35歳。仲むつまじい夫婦の姿も混じる。発足当時、数人だったメンバーも50人を超え、底辺も広がった。代表の武市篤浩さん(36歳)は、「みんなこのまちに愛着を持つ若者ばかり。気持ちよく活動してくれています。先輩の助言もあり復活することができた花火大会。若者の力を結集して地域を盛り上げていきたい。」と意気込んでいる。



イベントの準備は協賛金のお願いから始まる。町内約千軒を手分けして回る。回を重ねるごとに地域の理解も深まり、「その思いを形にできれば」と期待も一緒に預かる。

「県南一」と自負する花火大会は、音楽と花火を融合させた「音楽花火」がメイン。小学生にアンケートを取り、人気の曲を中心に構成を練り上げる。芸術性の高い音楽花火の迫力ある競演は、見る者を圧倒する。「わかいし(若者)がよう頑張つとる」と地域の評判も上々だ。花火大会がきっかけで、活動資金を生むための草刈作業を年配の人が手伝うなど、新たなつながりも生まれている。「日常のつながりは非日常でも役に立ちます。楽しみながら地域力を高められる、そんな花火大会にしたいですね」。

「宝田」という地名は、宝田村が成立する以前の立善寺村の字地「保田(ほうだ)」の「保」が「宝」(ほう↓たから)に改められて成立したとされる。老若男女が集うこの田んぼは、まさに地域の「宝の田」であり、祭りのにぎわいを保つていこうとする青年会の志は、歴史物語と重なる。さて、今年はどうな演出で私たちを楽しませてくれるのだろうか。